



〈雑録〉企業合同ノ經濟上ニ及ボス影響ヲ論ズ(3)

海老原, 竹之助

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 13(1):128*-143

(Issue Date)

1913-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051898>



資金ヲ投ジテ投資又ハ投機ノ取引ヲ爲サムトスル場合ニ仲買選定ノ努力ヲ惜ムハ委託者ノ不注意ナリ、投機賣買ヲ爲スノ資格ナキモノナリ、カ、ル愚者ヲ保護スル必要ナシ、非常ナル不注意力不正ナル意思ヨリスル委託者ノ爲メニ、與ヘラレタル權利ト専門的技能ヨリスル仲買人ノ行爲ヲ非難スルハ公平ナル相場ノ決定ヲ非難スルモノニシテ投機市場本來ノ機能ヲ傷ハムトスルモノナリ。

六

之ヲ要スルニ「吞」ノ弊害ハ顧客ノ注意ニヨリテ、或程度迄避ケ得ベク、若シ全然此「吞」ヲ除去セントセバ顧客ノ注意ニヨリ自然淘汰及ビ税金引下グ手数料引下グニヨリテ充分投機ノ危険ヲ減少シ客仲買ト手張仲買トヲ竝立セシムルノ策ヲ立テザルベカラズ唯事ハ早急ニ成就スベキ性質ノモノニ非ズ、當局モ學者モ當業者モ顧客モ此理由ヲ理解シテ漸次弊害ヲ避ケテ進歩ヲ謀

ランニハヤガテ完全ナル組織ヲ得ムカ。
若シ愚稿先輩諸先生ノ叱正ヲ得バ幸甚

企業合同ノ經濟上ニ

及ボス影響ヲ論ズ (其三)

商學士 海老原竹之助

第四節 外國貿易ニ及ボス影響

企業合同ナルモノハ已ニ述ベタルガ如ク一面自由競争ノ弊ニ堪ヘズ、他面、經營管理ノ集中ニヨリテ營利ノ目的ヲ達セントシテ發生シタルモノナレドモ、更ニ其勢ヲ助長スルニ與リテ力アルモノハ彼ノ保護關稅ノ存在是レ也、蓋シ合同ハ市場ノ獨占又ハ支配ヲ目的トシ、其目的ヲ達センニハ外部ヨリノ競争ノ少ナキコト又ハ皆無ナルコトヲ必要トスルニ、今、保護關稅ノ存在ハ少ナクトモ其關稅額ニ運搬費ヲ合計シタル

丈ケ外國競爭ヲ防止スルモノナレバ也、サレバ事業ノ性質及生産貨物ノ性質ガ地方的又ハ獨占的ナルモノヲ除キ（例ヘバ數多ノ市街鐵道會社或ハ瓦斯又ハ電燈會社間ニ合同ノ成立シタル場合ハ事業ノ性質上、獨占のニシテ且地方的ナルベク、又石炭、煉瓦等ノ事業ニ在リテハ他地方ヨリ運搬シ來リテ競爭スルコト困難ナルヲ以テ貨物ノ性質上、獨占的ナルガ如シ）其生産スル所、大量貨物ニシテ世界の販路ヲ有スルモノニ在リテハ保護關稅ト合同ノ成立トハ甚ダ密接ノ關係ヲ有シ、例令、其絕對的要件トハナリ能ハザルモ尙ホ其要件中ノ主要ナルモノ、中ニ數フルヲ得ベキ也。

然リト雖合同ノ成立要件トシテノ保護關稅ニ就テハ予ハ茲ニ多言ヲ費ヤスヲ欲セズ、蓋シ兩者ノ關係ハ之レヲ合同成立ノ要件論中ニ讓ルノ至當ナルヲ思ヘバ也、サレバ今茲ニ主トシテ述ベントスルハ彼ノ合同ナルモノガ一面保護關稅

ノ障壁ニ隱レテ内地市場ヲ支配シナガラ、他面内地ニ於ケル過剩生産品ヲ海外ニ輸出スル場合ノ所謂輸出廉賣ナルモノ、影響ニ就テノ管見ナリトス。

抑々企業合同ガ輸出廉賣ヲナスニハ凡ソ二箇ノ場合アリ、一ツハ内地財界ノ不況、其他ノ原因ニヨリ一時的ニ消費ノ減退シタル爲メ、過剩生産品ノ生ジタル場合ニ行フモノニシテ他ノ一ハ合同ガ營業上ノ常規トシテ常ニ行フ所ノモノタリ、後者ハ蓋シ「近世生産方法ノ避ク可カラザル結果」トシテ發生シタルモノニシテ之レニ就テハ更ニ數言ヲ費ヤスノ要アルヲ思フ。

近時、生産技術ノ進歩ト其ニ器械、器具ノ發明、改良相次デ起リ、爲メニ何レノ企業ニ於テモ多額ノ固定資本ヲ要スルニ至リタリ、固定資本トハ其名ノ示スガ如ク固定セルモノニシテ容易ニ之レヲ他ニ移ス可カラズ、若シ強イテ之レヲ移サントスレバ多大ノ損失ヲ忍バザル可カラ

ザルヲ以テ此種ノ資本ハ最モ經濟的移動性ノ少ナキモノト云ハザル可カラズ、而カモ斯クノ如キ資本ガ近世企業ノ特象トシテ現ハレ來リタルヲ以テ企業者ハ例令財界ノ不況ニ遭逢シ、需要ノ減退スルニ至ルモ生産ヲ縮少スルコト能ハズ假シヤ其固定資本ニ對スル絶對的利益ヲ舉グル能ハズトスルモ若シ其流動資本ニ對シテ相當ノ利益ヲ得ルヲ得バ以テ満足セザル可カラザルニ至リタリ、即チ多額ノ資本ヲ空シク遊バスヨリモ比較的損失ヲ忍ブモ其生産力ヲ充分ニ發揮スルヲ以テ却ツテ利益トナスニ至リタリ、合衆國鋼鐵會社ノスワツプ氏曾テ米國產業委員會ニ於テ説明シテ曰ク。

“When our mills are not running steadily and full, we will take orders at low prices, even if there is some loss in so doing, in order to keep running..... We would rather be sure of running our works full at a

known loss than not to run them at all.”(註一)ト、而シテ之レアツシユレー氏ノ所謂「近世生産方法ノ避ク可カラザル結果」ニシテ、カクテ生産過剰ハ慢性的痼疾のトナリテ、市價ノ低落ハ愈々甚ダシカラントスルナリ、時恰カモ良シ保護關稅ノ障壁高ク築カレテ内地市場ハ彼等ノ爲メニ確保セラル、果然、合同ハ其獨占力ヲ利用シ内地市場ニ其供給額ヲ制限シテ市價ヲ引上げ、カクシテ生シタル過剰生産品ハ之レヲ海外ニ輸出廉賣シテ固定費ノ一部分ヲ償ヒ、以テ全體トシテ相當ノ利益ヲ得ントスルニ至レリ、「ダニンペンゲ」即チ是レ也、(註二)

註一 Report of the Industrial Commission vol. XIII p. 454.

註二 過剰生産ハ近時、何種ノ企業タルチ間ハズ之レヲ見ル所ナレドモ我三大精糖會社ノ過剰生産力ハ實ニ左ノ如キモノアリ、(東洋經濟新報、五四四、「我輸出糖ノ運命」エヨ)

大日本精糖會社

一日生 産能力 「トン」	一箇年 生産能力 「トン」	内地需要高 「トン」
七〇〇	三三、八〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

横濱精糖會社	一五〇	五〇〇〇〇〇〇〇	三三〇〇〇〇〇〇〇
神戸精糖會社	八〇	四〇〇〇〇〇〇〇	一四〇〇〇〇〇〇〇
合 計	九三〇	九〇〇〇〇〇〇〇	三三〇〇〇〇〇〇〇

即チ以上三會社ノ聯合ハ一日生産能力、九百三十「トン」一箇年生産能力、四億六千八百萬斤ノ巨額ニ上ルニ反シ、内地ノ精糖消費高ハ一億三千五百萬斤内外ニシテ恰カモ其三割ニ當ルニ過ギズ、是レ現今我國ニ於テ時々糖業界ニ種々ノ問題ヲ惹起スル原因ナリトス。

以上ハ合同ガ輸出廉賣ヲ行フニ至ル原因ナレドモ、然ラバ如何ナル程度マデ其市價ニ差別ヲ設クルヤ、實ニ此程度コソ、其輸出廉賣ヲ行フ分量ト共ニ「ダンピング」ノ影響ヲ研究スルニ當リテ考ヘザル可カラザル重要ナル事項ナリトスサレバ今、二三ノ實例ニ就テ之ヲ示サン。

彼ノ米國ニ於ケル合衆國製鋼會社(U. S. Steel corporation)ハ資本金十四億弗ヲ有スル最大「トラスト」ニシテ一面、内地市場ヲ獨占シ、他面英國市場ニ向ツテ盛ニ輸出廉賣ヲ試ミ、其内外市價ノ差違ハ實ニ左ノ如キモノアルヲ見ルハ註三

米國 船用鋼鐵一噸ノ價		英國(同上)	
一九〇〇	二四・六四	三八・八八	
一九〇一	三一・三六	三二・八〇	
一九〇二	三五・八四	二七・三七	
一九〇三	三五・八四	三〇・三七	
一九〇四	三五・八四	二六・一五	
一九〇五	三三・六〇	二七・九三	
一九〇六	三五・八四	三三・一七	
一九〇七	三八・〇八	三六・四五	
一九〇八	三八・〇八	三一・六三	
一九〇九	三五・八四	二九・二〇	

米國ノ製鋼業ハ最近二十年ニ於テ無比ノ發達ヲ遂ゲ、今ヤ其產額世界第一ト稱セラルト雖、製鋼ニ對スル保護稅ノ高キ爲メト、其結果遂ニ「トラスト」ヲ誘起シテ猛烈ナル「ダンピング」ヲ行フガ爲メニ内外市價ノ差違ハ實ニ右ノ如キモノアルヲ見ル、更ニ「アメリカ」造船會社長ウオレースガ Merchant Marine Commission ノ質問ニ應ジテ答ヘタル所ナリト云フヲ聞クニ「一米國大製鋼所ガベルファースト渡シ一噸二十四弗

ニテ十萬噸ノ鋼鐵ヲ賣却シタルニ對シ、米國造船所ハビツツバীগ渡シ三十二弗ニテ賣却シタル爲メ「八千噸ノ船舶製造ニハ大約三千五百噸ノ鋼鐵ヲ要スルガ故ニ一噸八弗ノ差ハ合計二萬八千弗丈ケ英國ニ於テ造船スル方低廉ナル譯ナリ」ト云ヒシト云フ、以テ内外市價ノ差違ノ如何ニ大ナルカラ知ルニ足ルベシ、(註四)

註三 國民經濟雜誌九ノ六、雜報欄參照

註四 以上ハ米國ニ於ケル鋼鐵「トラスト」ノ實例ナレドモ、獨逸ニ於ケル「カルテル」シンザケート」ガ行フ所ノ輸出廉賣ハ更ニ甚ダシキモノアルヲ見ル、統計ハ少シク古ケレドモ左ニ掲グル二三ノ實例ハ以テ其一端ヲ窺フニ足ルベシ。先ヅ獨逸ノ「カルテル」中、最モ完全ナル組織ヲ有スル「サエスト、フアリア」石炭組合ノ調査ニヨル石炭ノ平均賣價ハ次ノ如シ

年 度	內國市價	外國市價	(買主ノ手許マデノ費用ヲモ含ム)
一九〇〇	一〇・七〇	九・八二	廣充
一九〇一	一一・〇一	一一・二二	廣充
一九〇二	一一・四五	九・八四	廣充

而カモ上表ノ市價ハ平均相場ニシテ實價ノ賣直ハ一層著シ

キ相違ナ有シ獨逸市場ニテ一噸十八麻克半ノ場合ニ澳太利ニ於テハ八麻克半ニ販賣セルコトアリト云フ。

次ニ「サエスト、フアリア」石炭組合ノ平均賣價ハ左ノ如シ

年 度	內國市價	外國市價
一九〇〇	一七・〇〇	一六・一二
一九〇一	一七・〇〇	一六・八六
一九〇二	一五・〇〇	一三・一一

殊ニ彼ノ酒精製造業者組合ノ如キハ次ノ如キ輸出廉賣ヲナセリ。

年 度	漢堡自由港渡	內國賣直
一九〇三年一月	一九・〇〇	四八・四〇
同 年五月	二三・〇〇	五〇・六〇
一九〇四年一月	四二・〇〇	六〇・六〇
同 年七月	三七・〇〇	六二・八〇
一九〇五年四月	三五・〇〇	七〇・二〇

(國民經濟雜誌四ノ五、關博士「企業聯合及合同ノ輸出獎勵策」參照)

又、獨逸ノ線鐵聯合ハ一九〇〇年ニハ其市價ニ左ノ三種ヲ設ケタリ。

- (1) for sale to German consumers, 185 marks per ton;
- (2) for sale in Germany for export, 170 " " " ;
- (3) for sale to foreigners; 115 " " " ;

又、Nai Syndicate ハ獨逸國內ニテハ二五〇麻克（一「ト
ン」ナルニ外國ニテハ一四〇麻克ニ販賣シ、Rail Kartell、
內國ニテハ一一五麻克（一噸）ナルニガルトガルニテハ八五
麻克ニ販賣シタリト云フ。

（First—Monopolies, Trusts and Kartells, p. 116.）

斯クノ如ク企業ノ合同及聯合ガ盛ンニ輸出廉
賣ヲ行ヒ、内外市價ニ甚ダシキ差別ヲ設クル結
果、其直接ノ影響トシテ内地消費者ニ課税シテ
之レヲ外國需要者ニ與フルノ有様トナレドモ、
更ニ他面ニ於テ甚ダシキ惡影響ヲ其國ノ經濟上
ニ及ボスヲ見ルナリ、即チ合同ガ內國市場ニ於
テ高價ニ販賣シ、外國市場ニ於テ廉賣スルノ結
果、其合同ノ生産スル貨物ヲ原料トシテ製造工
業ニ從事スル內國ノ精製業者ハ同貨物ヲ原料ト
スル外國ノ同業者ニ比シテ甚ダシキ高價ノ原料
品ヲ用フルヲ以テ、他日、精製品ヲ海外ニ輸出
シテ外國市場ニ於テ販賣スルニ當リ、其價格ニ
於テ到底外國品ト競争スルコト能ハズ、遂ニ全
ク其販路ヲ奪ハルカ、或ハ分工場ヲ海外ニ設ケ

テ、外國同業者ト同様ニ輸出廉賣ノ利益ニ浴ス
ルカノ一途ニ出テザル可カラズ、換言スレバ一
國ノ工業ヲ衰微セシムルカ、或ハ内地ノ工業ヲ
驅リテ外國ニ移ラシムルカノ問題ニシテ何レニ
シテモ一國ノ經濟上、重要ナル問題ナリトス、
例ヘバ獨逸ニ於ケル鋼鐵聯合ガ盛ンニ輸出ノ廉
賣ヲ行フノ結果、英國ノ造船業者ハ漢堡ノ同業
者ヨリモ獨逸製ノ鐵板ヲ廉價ニ購入スルヲ得ル
ヲ以テ、爲メニ米獨ニ對スル英國ノ輸出ハ大ニ
増加シタルガ如キ、又ライン河ニ使用セラル、
船舶ノ製造ガ殆ンド全ク和蘭陀ニ移リタルハウ
エスト、フアリア地方ヨリモ低廉ナル獨逸製ノ
原料ヲ得ルヲ得ルニヨルモノナリト云フ（註五）、
ハースト氏曰ク、

“The consequence of the sales in Holland,
Belgium, and England of coal, pig-iron, rolled
wire, etc. at these low prices were severely felt
by manufacturers of finished goods in 1902.

The most striking example, perhaps, is the transference of an important shipbuilding trade from Germany to Holland."

ラフアロウイツヒ氏モ同様ノコトラ云ヘリ、曰ク、

"The building of boats for the Rhine river navigation has passed over almost entirely to Holland, because the works in the Rhenish Westphalian district producing heavy plates, deliver in Holland at lower prices than in the interior of Germany." (註六)

思フニ保護貿易國ノ輸出廉賣ノ結果、自由貿易國ノ工業ガ非常ナル打撃ヲ蒙ムルベキハ已ニ英國、和蘭、白耳義等ノ現狀ニ照シテ明白ナル事實ニシテ、現ニ以上ノ諸國ニアリテハ之レヲ論據トスル保護貿易論サヘ盛ナルコトナレドモ反之、保護貿易國ソレ自身ノ工業モ亦非常ナル打撃ヲ蒙ムルコト、以上ノ事實ニヨリテ明ナリ

トス、サレバ之レニ對シテ如何ナル方策ヲトルベキカハ大ニ政策論者ノ講究ヲ必要トスル所ナレドモ、顧ミテ之レヲ合同ノ立場ヨリシテ見レバ大ニ彼等ノ意外トスル所ナラズンバアザル也、蓋シ彼等ハ輸出廉賣ヲ行フノ初メニ當リ、過剩生産ニ伴フ内地市價ノ低落ヲ防ガンガ爲メニ、例令其固定資本ニ對シテ絶對的利益ヲ得ル能ハザルモ、其流動資本ニ對シテ相當ノ利益ヲ得レバ可ナルノ意思ヲ以テ海外ニ廉賣セリ、而シテ内地市場ハ彼等ノ獨占スル所、市價ノ高低ハ彼等ノ自由ニシテ、最も多額ノ利益ヲ獲ルヲ得ルモ内地市場ナリト思ヒシニ、今、其輸出廉賣ノ結果ハ上述ノ如クニシテ、却ツテ内地工業ヲ驅リテ海外ニ移ラシムルノ結果トナリ、最多額ノ利益獲得地タル内地市場ノ日々ニ荒廢スルヲ目撃スルニ至リタレバ也、茲ニ於テ彼等ハ到底晏如タル能ハズ、何等カ一策ヲ廻ラシテ此額勢ヲ挽回セントセリ、カクテ案出セラレタルモノ

ハ彼ノ輸出獎勵金制度是レ也、

輸出獎勵金制度トハ合同ノ生産品ヲ使用スル
内國ノ加工又ハ精製業者ニ對シテ其精製シテ外
國ニ輸出スル部分ニ對シテ獎勵金ヲ割戻スノ方
法ナリ、カクノ如クスルトキハ精製業者ハ其内
國ノ消費ニ當ツル部分ニ對シテハ何等ノ影響ヲ
蒙ラズト雖其外國ニ輸出スル部分ニ對シテハ以
上ノ獎勵金ヲ受クルヲ以テ外國ノ同業者ニ比シ
テ甚ダシク不利ノ地位ニ立タズ、從ツテ其生産
品ハ外國市場ニ於テ其金額丈ケ安價ニ販賣スル
コトヲ得ベキ也。

然レドモ此輸出獎勵金制度ナルモノハ到底充
分ニ其目的ヲ達スルコト能ハザルナリ、蓋シ合
同ノ交付スル獎勵金ハ内外市價ノ差額ニ比シテ
甚ダ少ナキヲ以テ内國ノ精製業者ハ未ダ以テ外
國同業者ニ對抗スル能ハザレバ也、サレバ此
制度ハ幾分カ輸出廉賣ヨリ生ズベキ内地精製業
者ノ利益ヲ補償スルニ足ルベシト雖未ダ全ク

「ダンピング」ノ弊害ヲ除去スル能ハザル也、(註七)

註五 Smart—Return to Protection, P. 156.

註六 First—Monopolies, Trusts, and Kartells, p. 116.

註七 輸出獎勵策ニ關シテハ國民經濟雜誌四ノ五、關博吉企
業合同及聯合輸出獎勵策、參照

第五節 勞働者ニ及ボス影響

勞働者ガ合同生産品ノ消費者トシテ及ボサル
ル影響ニ就テハ已ニ第三節ニ於テ述ベタル所ナ
レバ茲ニ之レヲ省畧シ、本節ニ於テ主トシテ研
究セントスルハ單ナル合同ノ勞働者トシテ其地
位、其賃銀、及其他ノ勞働條件ニ及ボス影響奈
何ニ在リ、而シテ此點ニ關スル學者ノ所說、未
ダ婦一スル所ナキヲ見ルハ吾人後學ノ大ニ迷フ
所ナリトス。

(第一) 勞働者ノ地位ニ及ボス影響

茲ニ勞働者ノ地位ト云フハ其社會上ニ於ケル
地位ヲ意味スルニアラズシテ勞働者トシテノ地
位ヲ云フ也、換言スレバ企業合同ハ多數勞働者
ヲシテ其職業ヲ失ハシムルニ至ルヤ或ハ却ツテ

其職業ヲ確保スルニ至ルヤノ問題はレ也、結論ヲ先キニスレバ予ハ企業合同ハ其成立ノ當初ニ於テハ一部勞働者ヲ解僱シ從ツテ多少ノ失職者ヲ出セドモ、優秀ナル勞働者ハ却ツテ之レニヨリテ其地位ノ安固ト繼續性トヲ増加スルモノナリト信ズル也。

抑々企業合同ノ利トスル所ハ無謀ナル競争ヲ杜絶シテ贅費ヲ節約スルト同時ニ經營管理ノ集中ニヨリテ生産費ヲ節シ、貨物ノ生産原價ヲ低廉ナラシメテ、例令從來ニ比シテ其市價ヲ高メザルモ其得ル所ノ純益ハ其節約シタル額丈ケ増加スルノ點ニ在リ、此目的ヲ達センガ爲メニ合同ハ或ハ舊式無益ノ工場ヲ閉鎖シ、或ハ一部ノ勞働者ヲ解僱シ、或ハ更ニ高給使用人ヲ減ズルニ至ルハ當然ナリトス、彼ノ米國商業旅行者國民協會ノ會頭タル Mr. Dove (President of the Commercial Traveller's National League.) ノ如キハ大ニ此點ヲ主張シ、且合同ハ同業者間ノ競争

ノ杜絶スルノ結果、高キ勞銀ヲ出シテ熟練ナル商業旅行者ヲ迎フルノ必要ナキヲ以テ勞銀ノ低落ヲ來シタリトナシ、此論法ヲ以テ一般勞働者ニモ及ボセリ、又釀造家ノ一人タルバツドレー氏モ産業委員會ニ於テ同様ノ意見ヲ述べ、合同ニ於テハ總數三百人ノ販賣人ヲ解僱シタリト云ヘリ、更ニ亞米利加鋼鐵及線鐵會社ノゲーツ氏ノ確言スル所ニヨレバ販賣人二百餘人中二十人ノ外ハ悉ク之レヲ解僱シ、又高給使用人ノ五割ヲ解キタリト云フ、(註一)又之レヲ The Wire-nail Association of 1895-99 ニ就テ Charles E. Edgerton 氏ノ云フ所ニヨレバ合同中ノ或一會社ニ於テハ勞働者ノ「ストライキ」ノ結果、其勞銀ヲ五歩乃至一割五歩騰貴セシメタリト雖、勞働者ノ數ハ千人ナリシモノヲ三百人ニ減ジ他ハ悉ク之レヲ解僱シタリト云フ(註二)

斯クノ如ク企業ノ合同スルニ至ルヤ各獨立シタル企業者ガ互ニ競争ヲ是レ事トスル場合ニ比

シテ其使用スル勞働者ノ數ヲ減ジ、從ツテ多クノ失職者ヲ出シ、延イテ勞銀ノ低落ヲ來スニ至リタルハ其實例決シテ乏シトナサバル也、惟フニ近世工業ニ於テハ一面、激烈ナル自由競争ニヨリ、他面、大量生産ノ利益ヲ收メントシ兩々相俟ツテ過度ナル規模ノ擴張ヲ見タルヲ以テ、此種ノ企業者間ニ合同ノ成立スルニ至ルヤ、一ハ以テ需給ノ調和ヲ計ランガ爲メ、他ハ以テ生産費ノ節約ヲナサンガ爲メ、一部勞働者ノ解僱セラル、ニ至ルハ勢ノ然ラシムル所ニシテ之レヲ解僱セラレタル勞働者ヨリシテ見レバ洵ニ以テ合同ノ惡影響ナリトナサバル可カラズ。

然リト雖茲ニ一考ヲ要スルハ斯クノ如キ一部勞働者ノ解僱ハ之レヲ以テ直チニ企業合同ノ影響ト見ルベキヤ否ヤ是レ也、予ノ見ル所ヲ以テスレバ之レ一見、企業合同ノ影響ノ如キモ實ハ自由競争ノ結果ナリトナスノ至當ナルヲ思フ。

云フ迄モナク、自由競争ナルモノハ近世工業

ノ進歩發達ヲ促ガシタル原因ナリト雖、同時ニ近世工業ヲシテ過度ニ其規模ヲ擴張セシメタルモノモ自由競争ナリ、競争已ニ自由ナレバ、人ハ唯自己ノ利益ヲ増進セシメンガ爲メ、大量生産ニヨル生産原價ノ低落ヲ計ラントシテ不識不知ノ間ニ企業ノ規模ヲ擴張スルニ至ル也、其結果、生産過剰ハ慢性的トナリ、貨物ハ積ンデ山ヲナスモ生産ハ益々増加スルヲ見ルノミ、然カモ此勢ニシテ愈々助長シ、競争益々激烈ヲ極メンカ、企業者中ノ或者ハ收支相償ハズシテ遂ニ倒ル、ノ已ムナキニ至ルベシ、而シテ、其勞働者ハ全部解僱セラレテ續々トシテ路頭ニ迷フ者多キニ至ラン、弱者倒レテ強者獨リ榮ユルハ自由競争場裡、洵ニ已ム可カラザル現象ナリト雖勞働者ヨリシテ之レヲ見レバ實ニ悲シムベキ事ノ限リトナス、而カモ自由競争ノ到達スベキ終局ハ遂ニ茲ニ到ルヲ如何セン。

然ルニ企業合同ハ事ノ茲ニ至ラザル間、自由

競争ヲ杜絶シ、經營管理ヲ集中セシメ、適當ニ生産ヲ制限シテ供給過多ニ陷ラシメズ、依リテ以テ自己ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルト同時ニ生産界ノ消長ヲ緩和セントスルモノナレバ、合同成立ノ結果、從來過度ニ擴張セラレタル規模ハ多少ノ制限ヲ蒙リ、從ツテ一部ノ勞働者ハ解僱セラル、ニ至ルト雖其解僱セラル、ニ至リタル眞因ハ自由競争ニシテ之ヲ以テ企業合同ノ本來ノ性質ニ歸ス可カラザル也、若シ其企業ニシテ從來過度ノ膨張ヲナサバ例令合同ノ成立ヲ見ルモ生産ヲ縮少セシムルノ必要ナク、從ツテ勞働者ノ職ヲ失フ者アルヲ見ザルベシ、唯夫レ生産ヲ制限シ工場ノ一部ヲ休止閉鎖スルノ必要アル所以ハ自由競争ノ結果、過度ノ膨張ヲナシタルガ爲メナラズンバアラズ、サレバ此場合ニ在リテハ若シ企業ノ合同ヲ見ルニ至ラザルモ生産制限ハ遂ニ到底避クベカラザル所ニシテ一部ノ勞働者ハ當ニ職ヲ失フニ至ルベキ也、若シ企

業ノ合同ヲ見ズシテ競争益々激烈ヲ極ムルニ至レバ企業者中或者ハ遂ニ支フル能ハズシテ倒レ勞働者ハ全部解僱セラレ、衣食ノ途ニ窮シテ飢餓ニ泣クモノ陸續トシテ多キヲ見ルニ至ルベシサレバ合同ノ成立スルト否トニ拘ラズ一部勞働者ノ解僱ハ已ム可カラザル現象ニシテ、唯其影響ガ一ツハ一般的ナレドモ緩和ナルト、他ハ部分的ナレドモ強烈ナルノ差アルノミ、(註三)

之レヲ要スルニ合同ハ決シテ勞働者ニ惡影響ヲ及ボスモノト云フベカラズ、況ンヤ其合同ニシテ秩序アル生産ヲ行ヒ、需要ヲ計リテ生産ニ從事シ、將來ヲ豫測シテ適當ノ設備ヲ行フニ於テハ市況ノ變化、企業界ノ消長、從來ノ如ク急激ナラズ、從ツテ勞働者ノ地位モ亦安固ト繼續性トヲ増加スベキ也、(註四)サレバ例令合同成立ノ當時ニ在リテハ或ハ一部勞働者ノ解僱ヲ見ルニ至ルベキモ、其他ノ勞働者ハ之レニヨリテ却ツテ其地位ノ安固ヲ來シ、勞働者全體ヨリ見テ

決シテ非難スベキニアラザル也、而カモ其一部
勞働者ノ解僱ナルモノモ實ハ合同本來ノ性質ニ
アラズシテ其眞因ハ座シテ自由競争ニ存在スル
ニ於テヲヤ。

註一 Report of the Industrial Commission vol. I. p. 29-30.

註二 Ripley—Trust, pools and Corporatism P. 62.

註三 Grinzel—Über Kartelle. S. 138.

註四 Chicago Conference on Trusts p. 90.

Grinzel氏曰ク

“Dass die Kartellierung mit der Ordnung in der Produkt-
tion auch eine grossere Kontinuität und Sicherheit in der
Beschäftigung der Arbeiter bringt, kann zwar von keiner
Seite ganz geeignet werden.”

(Über Kartelle S. 137).

(第二) 勞働賃銀ニ及ボス影響

合同ノ勞銀ニ及ボス影響ニ就テモ學者ノ見解
必ズシモノナラズ、或ハ合同ハ勞銀ヲ騰貴セシ
ムルモノトナシ、或ハ反對ニ勞銀ヲ低落セシム
ルモノ也ト主張ス、グルンツエル氏ノ云フ所ニ
ヨレバボール氏ハ後者ニ與シ、各獨立シタル企

業者間ニ競争ノ存在スル場合ニ於テハ勞銀ハ時
勢ノ進運ニ伴ツテ騰貴スルモノナレドモ一旦企
業者間ニ聯合ノ成立スルヤ最早ヤ高キ勞銀ヲ出
シテ勞働者ヲ雇フノ必要ナキヲ以テ勞銀ハ低落
スルヲ見ルベシト主張シタリト云フ(註一)、思フ
ニ企業者間ニ合同ノ成立スルニ至ルヤ、勞働者
ヲ得ントスル企業者間ノ競争ハ止ミ、職業ヲ得
ントスル勞働者間ノ競争發生スルヲ以テ茲ニ勞
銀ハ低落スルニ至ルベシトハ何人モ想像ニ難シ
トセザルヲ以テ斯クノ如キ主張ヲナスモノ必ズ
シモボール氏ノミニ限ラザルベシ。(註二)

然リト雖之レヲ事實ノ多クニ就テ見レバ吾人
ハ以上ノ論者ノ寧ロ誤リニ近キヲ發見スル也、
今之レヲ米國ニ於ケル左ノ諸會社ニ就テ見レバ
賃銀増加ノ割合ハ凡ソ左ノ如シ(註三)

The Tin Plate Co.

15—20%

The National Steel Co.

15—20%

The American Steel & Wire Co.

(平均) 40%

The Federal Steel Co.

() 11%

The American Steel Hoop, Co.
The International Silver Co.

15-25%
5-10%

又之ヲ The Wire nail Association of 1895-96

ニ就テエドガートン氏ノ云フ所ニ依ルモ同様ノ事實アリ、即チ合同同中ノ或一大會社ハ其勞銀ヲ一八九五年六月ヨリ一割ヲ、一八九六年三月一日ヨリハ更ニ一割ヲ増加セリ、又或他ノ一會社ハ一八九五年七月ヨリ一割ヲ高メタリ、又或他ノ一會社ニ於テハ「ストライキ」ノアリシ爲メ一八九五年九月ヨリ Wire-drawer ニ對シテハ一割乃至一割五分、 nailmaker ニ對シテハ五分ノ騰貴ヲナシタリト云フ(註四)、又之レヲウオーカ^イ氏ガ獨逸ニ於ケル石炭聯合ニ就テナシタル調査ニ依レバ聯合ノ成立以來、勞銀騰貴ノ趨勢ハ實ニ左ノ如キモノアルヲ見ル、(註五)

上シレッア		下ツレシア	
勞銀者數	勞働一箇年間日數	勞銀者數	勞働一箇年間日數
一八八	一八五	二八〇	三〇四
四〇六七	二八〇	三〇四	一三九七
			三九

一八九一	二四	六三、四九三	六八	二五〇	六六、六九	三〇四
一八九五	二四	五三、三八	二七五	二四	一七、八三四	三〇三
一九〇〇	三三	六八、四五	二八一	三〇〇	三三、四六	三〇四
一九〇一	三三	七二、六三	二八一	二九二	二四、一〇七	三九
一九〇三	二九七	九一、九	二七七	二五	二四、〇六一	二五
ドルトムンド						
一八八	二六九	一〇、一五	三三	二九二	一四、〇三	二九
一八九一	三五四	一四、六〇三	三七	三六九	二六、八七	二九三
一八九五	三八	一五、三三	三五	三七	三〇、五三	二五
一九〇〇	四八	二〇、〇一	三八	三六	四〇、二〇三	二五三
一九〇一	四〇七	二六、七九	三〇	三五四	四一、九二三	二五四
一九〇三	三八二	二六、五三	二六	三七七	四二、三	二五五

今仔細ニ上表ヲ點檢シ、而シテ以上ノ各地ニ於テ聯合ノ成立シタルハ一八九〇年乃至一八九三年ノ間ニ於ケルコトヲ思ヘバ以テ勞銀ト聯合トノ關係ヲ察知スルニ難カラザルベシ。

思フニ企業合同ナルモノモ尙一ツノ企業ナル以上、其目的ハアラユル機會ヲ利用シテ飽クナキ營利心ヲ満足セシメントスルニ在ルヲ以テ一面ニ於テハ生産品ノ市價ヲ騰貴セシメ、他面ニ

於テハ生産費ノ節約ヲ計ランガ爲メニ經濟上ノ弱者タル勞働者ヲ壓倒シテ勞銀ヲ低落セシムベキ筈ナルニ事實ハ却ツテ之レニ反スル事、以上ノ如クナル所以ノモノハ抑々何ソヤ、予ハカク考ヘ來リテ其理由、左ノ四個ヲ得タリ。

(一) 合同ハ營業上ノ利益ヲ増加セントスルハ勿論ナレドモ勞働者ヲ苦シメテ生産費ヲ節約スルヨリハ寧ロ經營管理ノ集中、及市場ノ獨占又ハ支配ニヨリテ無用ノ競争費ヲ節シ、同時ニ其ノ生産品ノ市價ヲ高メテ營利ノ目的ヲ達セントスルヲ以テ必ズシモ勞銀ヲ低落セシメザル也。

(二) 合同ノ成立スルヤ、多數ノ勞働者ヲ解僱スルト同時ニ其勞銀ノ低落ヲ強制スルガ如キハ甚ダシク世論ノ反對ヲ招クノミナラズ、企業者ハカ、ル世論ノ反對ヲ買フ迄ニ其利欲ノ念ヲ増サズトモ合同ニヨリ他ノ方面ヨリ來ル莫大ナル利益ニ満足スルヲ得ベキヲ以テ也、思フニ合同ハ「勢力アル組織體トシテ公衆ノ監視ノ下ニ立

ツコトハ個人企業者ヨリ著シキ」ヲ以テ、サラデダニ合同ニ對シテ非難攻撃ノ喧シキ今日、更ニ勞銀ヲ低落セシメテ其聲ヲシテ一層大ナラシムルガ如キハ思慮アル經營者ノ決シテナサル所ナリトス。

(三) 合同成立ノ當時ニ於テハ生産ノ縮少又ハ工場ノ閉鎖ニヨリテ一時多クノ失職者ヲ出シ所謂工場の豫備兵 (industriellen Reservearmee) ヲ増加スレドモ其解僱セラレザル勞働者ニ對シテハ其職業ノ安固ト繼續性トヲ増スヲ以テ、合同成立シテ時ノ漸ク久シキニ至レバ永久の勞働者階級ヲ作り、工場の豫備兵ハ漸次減少シテ勞働者ノ代用者ナキニ至ルヲ以テ、獨占ハ勞働者ノ側ニ存シ、企業者ハ過當ナラザル要求ニハ應ゼザルベカラザルニ至ル也、(註六)

(四) 輓近下層社會ノ自覺向上ハ大ニ其間ノ團結運動ヲ盛ナラシメ所謂職工組合ナルモノヲ組織シテ雇主ニ對抗スルニ至リ、雇主モ從來ノ如

ク專横ヲ逞フスル能ハズシテ、勞銀ノ引上ゲ勞働條件ノ改良等ニ關シ其相當ナル要求ハ之レヲ容ル、ノ已ムナキニ至リタリ、思フニ勞働者ハ經濟上ノ弱者ナリ、其智力、財力ノ著シク劣レルト競争者ノ多キトニヨリテ勞働取引上甚ダ不利ノ地位ニ在リ、サレバ一面ニ於テハ相互救済ノ目的ヲ以テ他面ニ於テハ雇主ノ横暴ニ對抗シテ自己ノ地位ノ確保ト上進トヲ計ランガ爲メニ茲ニ團結シテ一致ノ行動ニ出デントスルハ最近ノ大勢ニシテ又勢ノ當然トスル所也、而シテ此團結運動ガ勞銀ノ引上ゲニ與リテ力アルハ言フヲ俟タザル所也、

(第三) 其他ノ勞働條件ニ及ボス影響

終リニ合同ガ其他ノ勞働條件、即チ勞働時間勞働者ノ待遇、保護及工場ノ設備等ニ及ボス影響奈何ト云フニ余ハ概シテ其良好ナルヲ思フモノ也、蓋シ(一)個人企業及小會社ニ在リテハ其企業者ノ個人的利己心割合ニ勢力ヲ逞フスルヲ

以テ可成、勞働時間ヲ長クシ、待遇、保護設備等ニ關シテ要スル費用ハ可成之レヲ節約セント欲スルト(二)各企業者獨立セル場合ニ熟練ナル勞働者ヲ引付ケンガ爲メニハ可成勞銀ノ額ヲ大ナラシメ、其代リ其他ノ勞働條件ヲ惡クシテ以テ之レヲ償フニ至ルベク、(三)合同ニ在リテハ其使用スル勞働者ノ多數ナルガ爲メニ其勞働條件ノ如何ハ直チニ以テ多數人ノ幸福安寧ニ關スルヲ以テ世人ノ注意ヲ惹キ易ク從ツテ輿論ノ監視ヲウクルヲ以テ自然勞働條件ヲ改良スルニ至ルベシ、サレバ合同ハ一見其偉大ナル勢力ニヨリテ勞働者ヲ壓服逆待スルガ如クニ想像セラルト雖實ニ之レニ反シテ工場ノ設備ヲ完全ニシ、勞働者保護ノ手段ヲ講ジ、或ハ勞働時間ヲ適當ニ短縮スル等大ニ勞働條件ノ改良ニ努ムルモノト云フベシ、宣ナル哉、彼ノ獨逸ノルール地方ニ於テハ石炭聯合ノ成立以來、勞働者ノ死傷數大ニ減少シ又勞働者ノ爲メニ寄宿舎ヲ建設シタ

リト云ヒ、彼ノ加里聯合ニ在リテハ聯合解散ノ場合ニ其役員ニ與フル爲メ五萬麻ノ資金ヲ作リ勞働者保護ノ爲メニ法律ノ必要トスル以上ノ設備ヲナシ、且模範的寄宿舎ヲ設立シタリト云フ斯クノ如キハ思フニ個人企業ノ到底企及シ得ル所ニアラザル也。

(第四) 結論

之レヲ要スルニ企業合同ノ勞働者ニ及ボス影響ナルモノモ其他ニ及ボス影響ト同ジク簡單ニ論斷シ能ハズト雖上來研究シタル所ヲ綜合スレバ多少ノ例外ハアリトスルモ概シテ其影響ハ良好ナリト稱スルヲ得ベシサレバ予ハゼンクス氏ノ言ヲ借リテ「今日迄得タル實驗ノ示ス所ヲ以テスレバ勞力ハ資本ノ合同ニヨリテ一層有效トナリ、合同ニシテ其組織宜シキヲ得バ各職工ノ平均產出額ハ一層大トナリ、此増加セル效果ノ利益ハ雇主及勞働者間ニ分與セラレ消費者モ亦比較的小ナレドモ其利益ヲ受クルガ如シ」(註七)

ト結論セント欲ス (完結)

- 註一 Grinzel—Uber Kartelle. S. 139.
- 註二 Chicago Conference Trusts p. 622.
- 註三 Report of the Industrial Commission. vol. I. p. 30.
- 註四 Ripley—Trusts, Pools and Corporations. P. 62.
- 註五 Walker—Monopolistic Combination in the German Coal Industry. P. 290—9.
- 註六 Uber Kartelle. S. 140.
- 註七 Jenks—Trust Problem. chap. IX.

佛蘭西ニ於ケル人口問題

田中弘一

(Walter Weyl. Depopulation in Franceノ梗概)

人口問題ハ佛蘭西ニ於ケル重大ナル問題デア
ル、世界ニ於テ佛蘭西ノ如ク出產數少ク佛蘭西
ノ如ク出產數ノ著シク減少シツ、アル國ハナイ
或ル二三ノ地方例ヘバ海岸ニ沿ヘルアルプス、
カアリス附近ノ鑛業地或ハブリタニユニ於ケル